

コンパス薬局瀬谷 スキルアップ勉強会

2017. 4. 27 小西航

第69回 『エネーボ配合経腸用液』

アボットジャパン 布能様

参加者：味田村、生越、佐藤（綾）、阿部、伊藤、小西

現在、日本国内においては高齢化が急速に進んでおり、2025年には65歳以上の高齢者が3割に達するといわれています。2014年の診療報酬改定では、急性期病院の機能分化だけでなく、在宅医療の拡充にも重点がおかれ地域包括的な医療体制が構築されつつあります。このような背景において、経腸栄養剤には急性期タンパク異化亢進状態及び慢性期低タンパク栄養不良状態の両方に適応できる製品が渴望されてきました。

その期待に答えるため発売されたのが、経腸栄養剤として初めてとなる栄養成分、抗酸化作用のあるセレンや脂質代謝に関与するカルニチンの他に整腸作用が期待できるフラクトオリゴ糖、糖代謝に関連するクロム、酵素の構成要素であるモリブデン、脂質の消化・吸収に関与するタウリンを配合した、エネーボ配合経腸用液です。

【効能・効果】

一般に、手術後患者の栄養保持に用いることができるが、特に長期にわたり経口的食事摂取が困難な場合の経管栄養補給に使用する。

【用法用量】

通常、標準量として成人には1日1,000~1,667mL(1,200~2,000kcal)を経管又は経口投与する。経管投与では本剤を1時間に62.5~104mL(75~125kcal)の速度で持続的又は1日数回に分けて投与する。経口摂取可能な場合は日1回又は数回に分けて経口投与することもできる。

ただし、通常、初期量は333mL/日(400kcal/日)を目安とし、低速度(約41.7mL/時間(50kcal/時間)以下)で投与する。以後は患者の状態により徐々に増量し標準量とする。なお、年齢、体重、症状により投与量、投与濃度、投与速度を適宜増減する。特に投与初期は、水で希釈して投与することも考慮する。

【特徴】

エネーボは現在の推奨栄養所要量に沿った組成になっており、これまでの経腸栄養剤で十分補給できなかった微量元素のクロム、モリブデン、セレンに加えて、腸内環境を整え

るフラクトオリゴ糖、脂質代謝を助けるタウリン、L-カルニチンなども含んでいることが特徴です。

【副作用】

成人患者を対象とした第 III 相比較試験において、安全性評価対象 59 例中 43 例(72.9%)に副作用がみられた。主な副作用は下痢 24 例 (40.7%)、便秘 9 例 (15.3%)、腹部膨満 6 例 (10.2%)、腹痛 5 例 (8.5%) 等の消化器症状及び低ナトリウム血症 4 例 (6.8%)、高カリウム血症 3 例 (5.1%) であった。

主な臨床検査値の異常は γ -グルタミルトランスフェラーゼ増加が 5 例 (8.5%)、血中アルカリホスファターゼ増加が 4 例 (6.8%) であった。

【考察】

在宅経管栄養において、薬価収載されている製剤を使用することは患者様の経済的なメリットがととも大きい。胃食道逆流症の合併による投与困難や長期投与による栄養障害が危惧されるが、エネーボが発売されたことにより、病態や介護者の状況に応じた選択肢が広がっていると考えられる。そのため、薬剤師には製剤の特徴を理解して管理する必要が求められている。

【質問事項】

Q、特徴的な副作用は？

A、なし。

Q、余ったときの保存方法は？

A、容器を移してラップをする。24 時間以内に服用すること。

Q、1 番売れている経腸用製剤は？

A、エンシュア H。